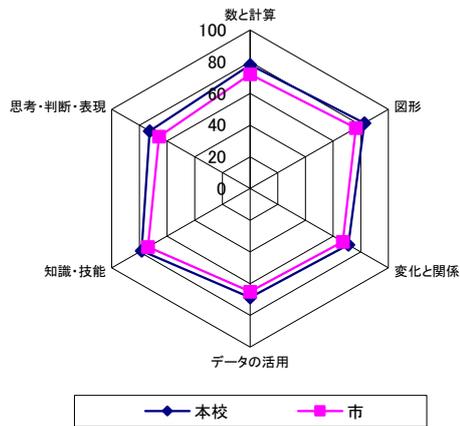


宇都宮市立城東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.0	72.1	74.6
	図形	82.6	76.5	76.1
	変化と関係	71.0	67.1	59.7
	データの活用	68.7	65.0	64.5
観点別	知識・技能	78.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	72.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本校の平均正答率は78, 0%で、市の平均正答率を5, 9ポイント上回っている。</p> <p>○帯分数×真分数の短答式の問題では、市の平均正答率を13, 5ポイントと大きく上回っている。</p> <p>○2つの文字を使って表された式で、一方の値から他方の文字を求める短答式の問題では、の平均正答率を13, 7ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める問題では、市の平均正答率を0, 6ポイント下回っている。</p>	<p>・基本的な計算技能の定着が見られる。今後もAIドリルなどを活用しながら基本的な計算練習を繰り返し行い、より正確な計算技能が身に付くよう指導していく。</p> <p>・導入時既習の倍の計算を振り返り、数直線を用いて、式が正しいかどうかを検討し、根拠をもって立式できるように指導していく。</p> <p>・比較量や基準量の関係を的確に捉えるため、単に立式を急がせるのではなく、問題場面の状況について児童同士で説明し合う活動を取り入れる。</p>
図形	<p>○本校の平均正答率は82, 6%で、市の平均正答率を6, 1ポイント上回っている。</p> <p>○複雑な立体の体積を2つの立方体に分けて求める短答式の問題では、市の平均正答率を14, 9ポイントと大きく上回っている。</p> <p>○線対称な図形の対応する点を求める短答式の問題では、市の平均正答率を10, 2ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●3辺の長さを使って、合同な図形を作図する短答式の問題では、市の平均正答率を3, 9ポイント下回っている。</p>	<p>・面積や体積の問題では、長方形の面積や直方体の体積の求め方を活用して、様々な図形の面積や体積が求められることを視覚的にイメージできるように、デジタル教材などで確認するとともに、体積や面積を求める問題を反復練習し、定着を図る。</p> <p>・授業での合同の定義づけを再確認し、正確に作図できるよう段階的指導を繰り返し行い、定着を図る。</p> <p>・図形の性質を正確に捉えさせるため、デジタル教材での視覚的な確認に加え、実際に手を動かす作図活動の時間を重点的に確保する。</p>
変化と関係	<p>○本校の平均正答率は71, 0%で、市の平均正答率を3, 9ポイント上回っている。</p> <p>○表から車両数と人数を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する選択問題では、市の平均正答率をポイント8, 0上回っている。</p> <p>●単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊当たりの値段が安いのかを求める記述式の問題では市の平均正答率を2, 7ポイント下回っている。</p>	<p>・これまで数直線を用いて数量関係を捉えられるよう指導を続けてきたことが、市平均を上回った大きな要因と考えられる。今後も授業において数直線を積極的に活用していく。</p> <p>・記述式の課題に対しては、図や式を根拠に「なぜそうなのか」を言葉で説明する練習を積み重ね、論理的な記述力を育成する。</p>
データの活用	<p>○本校の平均正答率は68, 7%で、市の平均正答率を3, 7ポイント上回っている。</p> <p>○円グラフを正しく読み取る選択問題では、市の平均正答率を17, 5ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●度数分布表を完成させる短答式の問題では、市の平均正答率を8, 3ポイント下回っている。</p>	<p>・度数分布表の作成などの基礎的な整理技能を高めるため、データの分類や集計の工程を丁寧に演習を増やす。</p> <p>・算数のみならず、社会科や理科、総合的な学習の時間など、他教科においてもデータ活用を意識した指導を展開し、実社会のデータを扱う経験を通して、目的を持ってデータを収集・考察する統計的リテラシーを養う。</p>